

公演曲目

1. L.v.ベートーヴェン／弦楽四重奏曲第11番へ短調「セリオソ」Op.95
2. F.メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 二短調 Vn solo 高木和弘
3. W.A.モーツァルト／カッサシオン 変口長調 K.99(63a)

※曲目は変更になる場合がございます。予めご了承ください。

出演者

Vn: 森 悠子・高木和弘・谷本華子・石上真由子・田中佑子・岸田謙太郎・長瀬大観・松崎国生
Va: 南條聖子・野澤匠 **Vc:** 金子鈴木太郎・杉本環紀 **Cb:** 石川徹 **Ob:** 中江暁子・須貝絵里
Hr: 鈴木啓哉・海塚威生

Profile

長岡京室内アンサンブル

Nagaokakyo-Chamber Ensemble



©Tatsuo Sasaki

「地域ごとに独自の音色を持つオーケストラがあるヨーロッパのように、長岡京独自の音色・思想を持った演奏団体を育てたい」、1970年代より欧米を中心に教育・演奏両面で国際的に活躍してきたヴァイオリニストの森悠子を音楽監督として、国内外の各地から優秀な若手演奏家を集め、1997年3月に結成。指揮に頼らず互いの音を聴く「耳」を研ぎ澄ませる独自のスタイルを特長に、緻密で洗練された技術と凝集力の高さ、独自の様式感覚をもった高度な表現法と音楽性の高さは、日本でも希有な存在と高く評価される。パロックから古典、ロマン派、近現代に至るレパートリーの広さも際立っている。「長岡京」から世界の第一線へ雄飛するメンバーも多い。2000年「第20回音楽クリティック・クラブ賞」、01年「エクソンモービル音楽賞・奨励賞」、03年「ABC音楽賞本賞」と「藤堂頭一郎音楽褒賞基金」、2004年長岡京市「文化功労賞」を受賞。09年、10年は東京公演を開催。11年と13年には「東京・春・音楽祭」にも出演好評を博す。

現在までにfineNFレーベルから7枚のCDをリリース。2016年12月には第8集をリリース予定。高度な最新技術を駆使して録音されたレベルの高い演奏で、音楽評論家や音楽専門誌・新聞などでも高く評価を得ている。

公式ホームページ

<http://www.musiccem.org>



森 悠子 (音楽監督・Vn)

Yuko MORI

教育哲学者・森昭の次女として、高槻市に生まれる。6歳より才能教育でヴァイオリンを始め、吉富周吉、山本剛史、東儀祐二、鷺見三郎、齋藤秀雄の各氏に師事。桐朋学園大学卒業後、齋藤秀雄教授の助手を務めたのち、旧チェコスロバキア、フランスに留学。

マリア・ホロニョヴァ、ミシェル・オークレールの各氏に師事。74年バイヤール室内管弦楽団入団、

ヨーロッパ各地をまわる。同時期、古楽器演奏の黎明期のパリで、本格的な古楽器の演奏にもかかわる。

77～87年フランス国立新放送管弦楽団(現フランス国立放送フィル)に在籍。89～96年リヨン国立高等音楽院助教授。90年フランス国立高等音楽院の教育システムを日本で実現し、超一流の教授陣を招聘して毎春開講する京都フランス音楽アカデミーを創立。

97年、「若い音楽家の育成と実践の場」と「常に世界に発信する演奏団体」を目指し、長岡京室内アンサンブル設立。

99～04年ルーズベルト大学シカゴ芸術大学音楽院教授。05年、キャパシティビルディング講習会を開講。以後、定期的開催。91年フランス政府より芸術文化勲章「シュヴァリエ章」授与。02年「京都府あけぼの賞」受賞。03年フランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ章」授与。16年京都府より「第34回京都府文化賞功労賞」受賞。

09年よりくらしき作陽大学音楽学部教授(16年より特任教授)。13～15年、指揮者の飯森範親とオーケストラ・室内楽特別セミナーを行う。

09年これまでの様々な音楽活動をまとめ、広げるため特定非営利活動法人音楽への道CEMを設立、理事長に就任。

著書に「ヴァイオリニスト 空に飛びたくて」(春秋社)がある。



高木和弘 (Vn)

Kazuhiro TAKAGI

6歳よりバイオリンを始め、国内で数々のコンクールに優勝及び入賞を果たす。主な賞歴としては1997年度ブリュッセルで行われたエリザベト王妃国際コンクール入賞、1998年ジュネーヴ国際コンクール第3位(1位なし)、2001年アメリカ・インディアナ州で行われたフィッシュョッフ室内楽コンクールにてユーシア弦楽四重奏団の第一バイオリン奏者として第一位などが挙げられる。国内で

©八木毅

は、2005年度文化庁芸術祭新人賞、大阪文化祭賞大賞受賞、2007年度第19回ミュージック・ベンクラブ音楽賞オーディオ部門録音作品賞を受賞と、その芸術家としての認知と評価も非常に高い。国内外のオーケストラとのソリストとしてもこれまで大阪フィルハーモニー、大阪交響楽団、関西フィルハーモニー、日本センチュリー交響楽団、東京交響楽団、ベトナム国立響、ヴェルテンベルグ・フィルハーモニーなどとの共演も多数ある。近年、日本で最高権威を誇る日本音楽コンクールの審査員としても度々招かれている。また近年、サミット・ミュージック・フェスティバル(ニューヨーク、アメリカ)など国内外の講習会などにおいても講師として招かれるなど、後進の指導にもあたっている。

これまでに和波孝禧、森悠子、エドワード・ウルフソン、エドワード・シュミダーの各氏に師事。これまでシヴィック・オーケストラ・オブ・シカゴのコンサートマスター、ドイツのヴェルテンベルグ・フィルハーモニーの首席コンサートマスター(2002～2006)、東京交響楽団コンサートマスター(2007～2012)、山形交響楽団ソロ・コンサートマスター(2006～2013)等を経て現在、長岡京室内アンサンブルメンバー、ダラス室内交響楽団コンサートマスター(ダラス、アメリカ)、いづみシンフォニエッタ大阪メンバー、リリス・チェンバー・オーケストラのリーダー、A Hundred Birds、tokyo.pandaのバイオリニストとしても演奏活動を展開中。また、一般社団法人日本弦楽器演奏家協会の代表理事も務める。